

歴史 1 9500年前のころ—解説—

復元された上野原遺跡

縄文時代の、東日本における代表的な遺跡は青森県の三内丸山遺跡であることはよく知られている。一方、西日本における代表的な遺跡の一つが、鹿児島県にある、写真の上野原遺跡である。

上野原遺跡は、縄文時代でも草創期から早期（約9500～7000年前）に属するものが含まれており、三内丸山遺跡が中期中ころから終わりころ（約5500～4000年前）のものであるのに対して、約4000年も古い。約9500年前に桜島から噴出降下した火山灰層直下の地層から発見された大集落からは、現在50軒以上もの竪穴住居群（国指定史跡）が発掘され、土器や石器類も多数出土しており、炉のような調理用の施設も複数見つかっている。また、貯蔵庫あるいは墓と目されている穴も100個以上確認されている。

ここは、日本で最古で最大級のムラの跡であり、全国に先駆けて人々の定住生活が始まったところと考えられている。従来、縄文文化は東日本が中心と考えられていたが、この発見により、まず南九州で栄え、その文化が全国に伝播した可能性が考えられるようになった。日本列島の温暖化も加わって、中期ころから、特に東日本で栄えたというのである。

★授業での使いかた

この遺跡の写真で生徒に理解させたいところは、まず、鹿児島県内にも重要な遺跡が存在することであり、つぎに、縄文文化は、青森県の三内丸山に代表されるように関東・東北だけでなく、日本列島全体に広がっていたことである。さらに、生徒が通常見慣れている竪穴住居のものとは違うことを読み取らせることにより、長い期間にわたる縄文時代にも、地域の特性を生かした文化が栄えていたことを理解させる。そして、丸木舟の存在などを読み取らせることにより、地域差があるにもかかわらず、縄文時代にも各地との交流が行われていたことを推測させたい。

生徒へのアプローチ例—こんな発問が効果的！

- この建物は、どこにあると思いますか。
- 教科書や資料集にある竪穴住居の図や写真と比べて、気づいたことを書き出し、なぜこのような建物として復元されているか考えてみましょう。
また、何人ぐらいが住んでいたのでしょうか。
- どのような生活をしていたと思いますか。